

# フィリピン台風被災地復興支援プロジェクト

かながわのNGOを通じた顔の見える災害支援

**緊急！ご支援ください！ 映画会開催！**

2009年9月26日、フィリピン・マニラ首都圏 & 周辺地域を台風16号（オンドイ）が直撃、9時間で416ミリの記録的な降雨を記録。現地では大きな被害が発生しました。貧困な人々が苦しみ支援を求めています。

死者：246人 行方不明：42人  
被災者：61万世帯（2009.10.1 現在）

9月末から10月初めにかけて、アジア・太平洋地域で大規模な自然災害が相次ぎました。フィリピンやベトナムを襲った台風、サモア、スマトラ（インドネシア）、バヌアツなどを襲った地震と津波、インドの豪雨。

それぞれの被災地では、まだまだ生活再建の目処が立たず、厳しい状況に置かれている人々が大勢います。特に海岸沿いの水はけのわるい地域には、貧困層の人々が多く暮らしており、ただでさえ苦しい生活に追い討ちをかけられた格好になっています。

こうした人々の生活再建を手助けしようと、神奈川の3つのNGOが、現地のNGOと連携して復興支援のプロジェクトに取り組んでいます。かながわ復興支援ネットワークでは、その活動を神奈川からグローバルな課題に取り組む仲間として応援します。神奈川の思いを現地に届けるために、皆さまのご協力をお願いいたします。

支援の方法① 寄付をする 募金期間：2009年12月31日まで

**募金先 郵便振替口座**  
口座番号 00210 - 2 - 134281  
加入者名 **かながわ復興支援ネットワーク**  
寄付先を右記の3団体よりご指定の場合は振込用紙の通信欄に団体名をお書き添えください。  
寄付金の10%は事務経費に充てさせていただきます。

支援の方法② 被災者支援映画会に参加する

フィリピン被災者支援映画会 『マリアのへそ』 <http://marias-navel.com>

参加費：大人 1,000円（前売り800円）  
子ども（中学生以下） 500円（前売り400円）  
会場：かながわ県民活動サポートセンター  
横浜駅下車徒歩5分  
横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2（地図裏面）

日時・部屋： 上映（106分）+ 現地報告  
11月22日（日） 604号室 第1回 15:30～18:00 第2回 18:30～21:00  
11月29日（日） 711号室 第3回 15:30～18:00 第4回 18:30～21:00  
11月30日（月） 711号室 第5回 15:30～18:00 第6回 18:30～21:00

マニラで生きる実在のストリートチルドレンたちが、貧しくも優しさにあふれた日常生活を演じる家族の物語。



詳しい情報はこちら  
<http://ynn-ngo.org/ondoy>

## 支援先NGO

### （特活）草の根援助運動

南北問題の解決を目指して、インド・フィリピンのNGOと共に、人々の自立を支援する持続可能な開発を行う。同時に、私たち自身の生活のあり方を見直す開発教育やキャンペーン等を行っている。

### （特活）ソルト・パヤタス

フィリピン・マニラ首都圏北東部に位置する巨大なごみ投棄場周辺で暮らす子供たちやその家族に対する、教育、医療、収入向上支援活動や交流活動を行う民間の国際協力団体。

### パグアーライ・ナン・プソ基金

### 日本事務所（PPFJ）

フィリピン・マニラ近郊のナボタス市やブラカン州で公衆衛生・教育・保育・給食・デケア・職業訓練などのプログラムを実施している。

【主催】 かながわ復興支援ネットワーク

【お問合せ・お申込み】 <事務局> 特定非営利活動法人 横浜NGO連絡会

〒231-0001 横浜市中区新港2-3-1 TEL:045-662-6350 FAX:045-663-3263 E-mail: info@ynn-ngo.org

プロジェクト・チーム

(財)かながわ国際交流財団、(財)横浜市国際交流協会、  
(特活)横浜NGO連絡会、かながわ開発教育センター、  
(特活)草の根援助運動、(特活)ソルト・パヤタス、  
バグアライ・ナン・プソ基金日本事務所

賛同団体

アジアの女性と子どもネットワーク、港南台タウンカフェ、  
(特活)WE21ジャパン、YICC(ヨコハマ・インターナショナル・コミュニティ・センター)、  
(特活)ピラーンの医療と自立を支える会、チベット交流会、(特活)横浜国際ボランティア協会、  
(特活)地球市民ACTかながわ、(特活)ふれんどしっぷASIA、(特活)FHCYアジア障害者パートナーズ

(以下、順次掲載させていただきます。)

支援の方法③ 団体、企業として賛同団体になる。  
\*募金活動、広報活動にご協力ください。

かながわ復興支援ネットワークとは

「かながわ復興支援ネットワーク」とは、神奈川県内の国際協力NGO、自治体、地域国際化協会、企業、労組等と一般市民が手を取り、海外の被災地の支援に取り組む仕組みです。

寄付金は緊急支援が一段落し、支援が減る復興期に用いられ、被災地で活動するNGOによって最も困っている人々へ直接届けられます。なお、被災地の状況は、ネットワークが主催する報告会などで逐次確認できます。

過去の支援実績：

- ミャンマーサイクロン被害復興支援（2008）
- ジャワ島中部地震・被災地NGO支援（2006）

ネットワークの運営について

「かながわ復興支援ネットワーク」は常任の運営委員と災害ごとに組織されるプロジェクト・チーム、一般の寄付者・協力者によって成り立っています。いったん災害が発生すると、運営委員会が開かれ、被災地の状況や県内のNGOの動きなどをリサーチします。その後プロジェクト・チーム参入の呼びかけや、募金活動に協力する賛同団体を募ります。

【運営委員団体】（任期2010年6月30日まで）

(財)かながわ国際交流財団、(財)横浜市国際交流協会、  
(特活)草の根援助運動、(特活)地球の木、かながわ開発教育センター、(特活)横浜NGO連絡会

【事務局】

(特活)横浜NGO連絡会

フィリピン被災地からの最新画像



フィリピン被災者支援映画会

『マリアのへそ』 11月22日・29日・30日

映画は、オーディションで選ばれた3人が兄妹役となり、大都市マニラの片隅で生活する姿をリアルに、そして静かに優しく描いていきます。

スモッグに霞む青い空、灼熱の太陽、スクール前の黒い雲、澱んで流れる町の川、喧噪あふれる市場、車の大渋滞、排気ガス、高層ビルをシルエットにして沈んでいく夕日……

そんな大都市の片隅、道端の彼らの住処。

新聞を脇に抱えて売り、物乞いをして得たわずかな収入を元に暮らすストリートチルドレンたちの日常生活。

それでも彼らには微笑みがあり、優しさがあり、家族の温かさが確かに存在している。

マニラの都市の裏通り、貧しい人々が生活する街、生活感溢れる市場の喧噪、路上の住処の夜の闇、澱んだ川の水面に浮かび上がる街の灯り……グリーンとブルーを意識してこの作品の世界を創り上げたカメラマンは、野澤監督とドキュメンタリー作品で仕事を共にしている堂本昌宏。

16:9のワイド画面に、フィリピンの大都市と田舎の風景の中で生きる人々の生き様が静かに切り取られていきます。

(『マリアのへそ』ホームページ・イントロダクションより)

【会場案内】

